

奈良県 県内企業動向調査

(令和5年10-12月期)

調査結果報告書

令和5年11月実施

《主要ポイント》

全体の景況

- 今期は前期に比べ「好転」とした企業が0.7ポイント増加し、「悪化」とした企業が5.6ポイント減少したことから、全体では悪化幅が6.3ポイント減少し、悪化傾向が改善した。
- 来期の見通しについては「好転」とした企業が1.8ポイント減少し、「悪化」とした企業が1.7ポイント減少したことから、全体では悪化幅が0.1ポイント増加し、悪化傾向がやや悪化する見通し。

業種別の業況

- 今期は、製造業、建設業で悪化傾向が改善した。一方、小売業、サービス業は悪化傾向が強まった。卸売業は前期同様の厳しさが続いた。
- 来期は、製造業が、プラスに転じる見込み。建設業、小売業で悪化傾向が改善する見通し。一方、卸売業、サービス業で悪化傾向が強まる見通し。

1 全体概況

《業況DI(全体)》 (前年同時期比較)

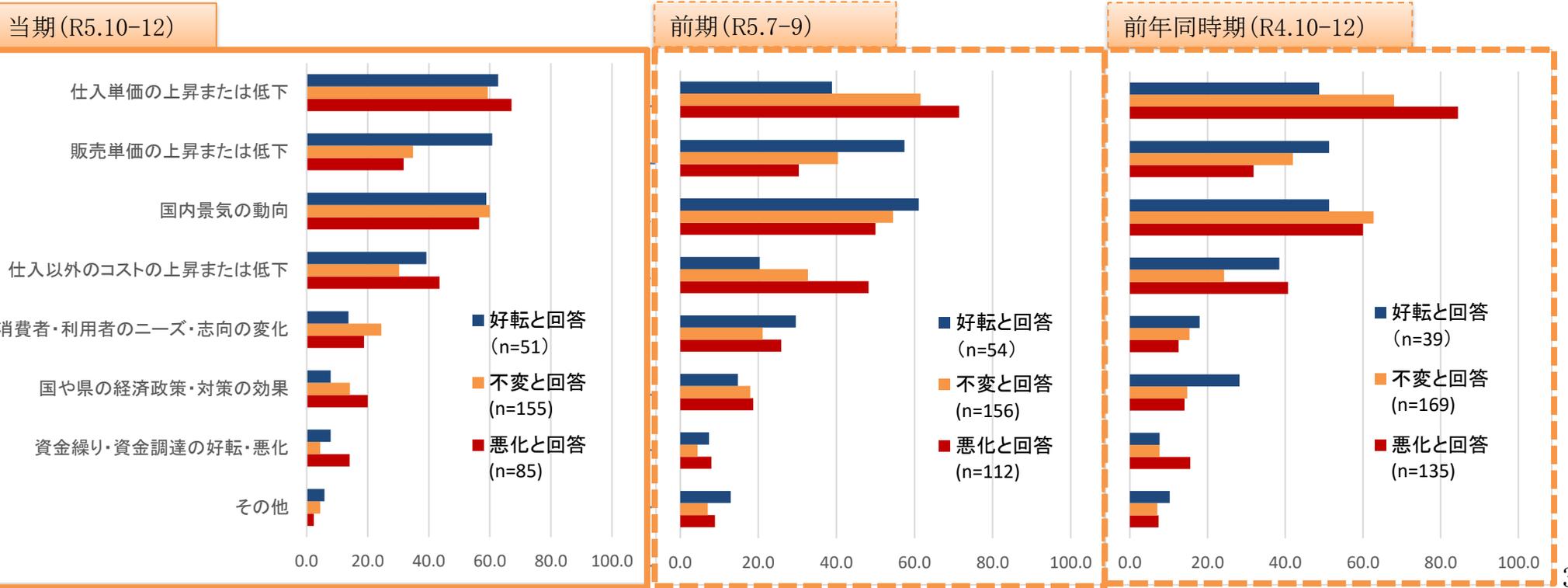
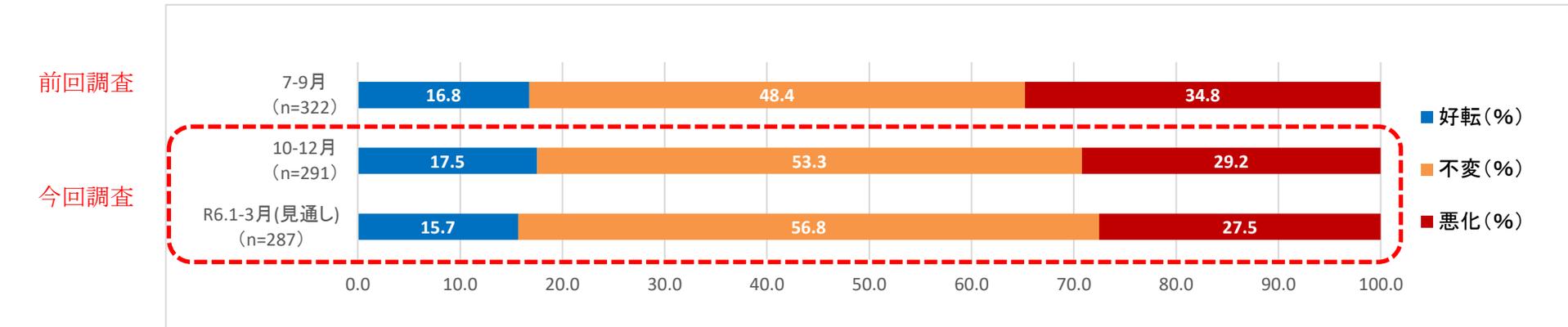
- R5.10-12月期の業況DI(好転-悪化)は、悪化幅が6.3ポイント減少し、悪化幅が縮小した。
- R6.1-3月期の業況DIは、悪化幅が0.1ポイント増加し、悪化幅がやや拡大する見通し。

前回調査時点(R5.8)の見通し



《業況判断及び判断の理由》

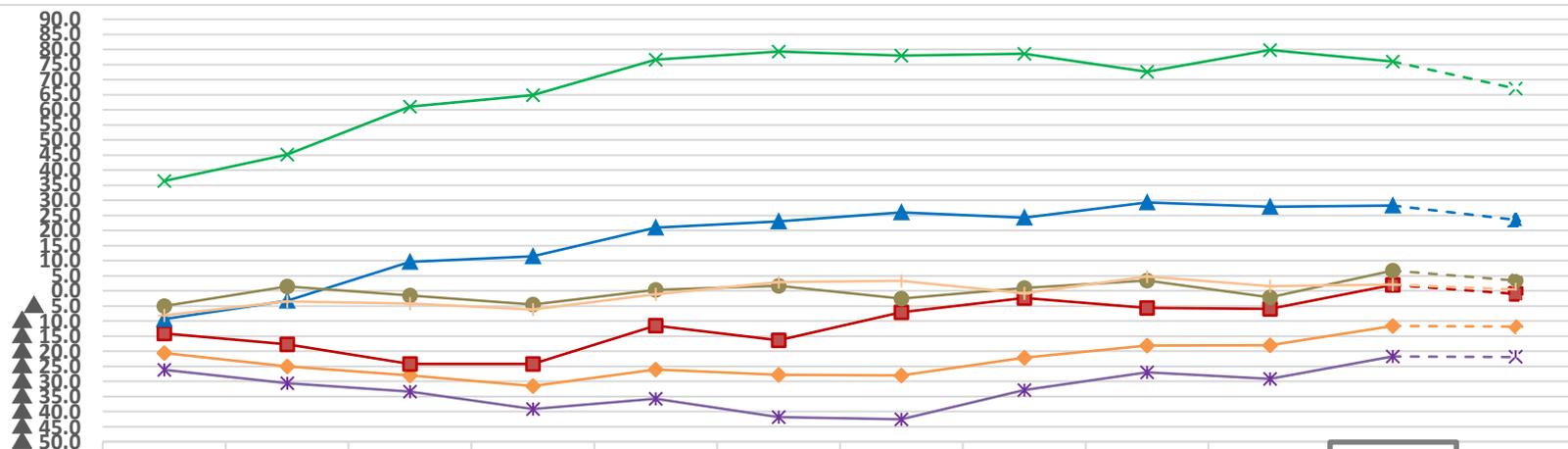
- R5.10-12月期の業況判断について、好転と回答した企業は(17.5%)、悪化と回答した企業は(29.2%)
- 「好転」と回答した企業では、「仕入単価の低下」「販売単価の上昇」「国内景気の動向」と答えた割合が高い。
- 「悪化」と回答した企業では、「仕入単価の上昇」「国内景気の動向」「仕入以外のコストの上昇」と答えた割合が高い。
- R6.1-3月期の業況判断の見通しについて、好転と回答した企業は(15.7%)、悪化と回答した企業は(27.5%)



《景況》 (前年同時期比較)

■ R5.10-12月期は、仕入単価DIが3.8ポイント減少し、上昇幅がやや縮小した。販売単価DIは0.4ポイント増加し、上昇幅がやや拡大した。売上額DIは8.0ポイント増加し、増加傾向に転じた。採算(経常利益)DIは7.5ポイント増加し、悪化幅が縮小した。業況DIは6.3ポイント増加し、悪化幅が縮小した。また、従業員数DIは8.8ポイント増加し、増加傾向に転じた。在庫数DIは0.6ポイント増加し、増加幅がやや強まった。

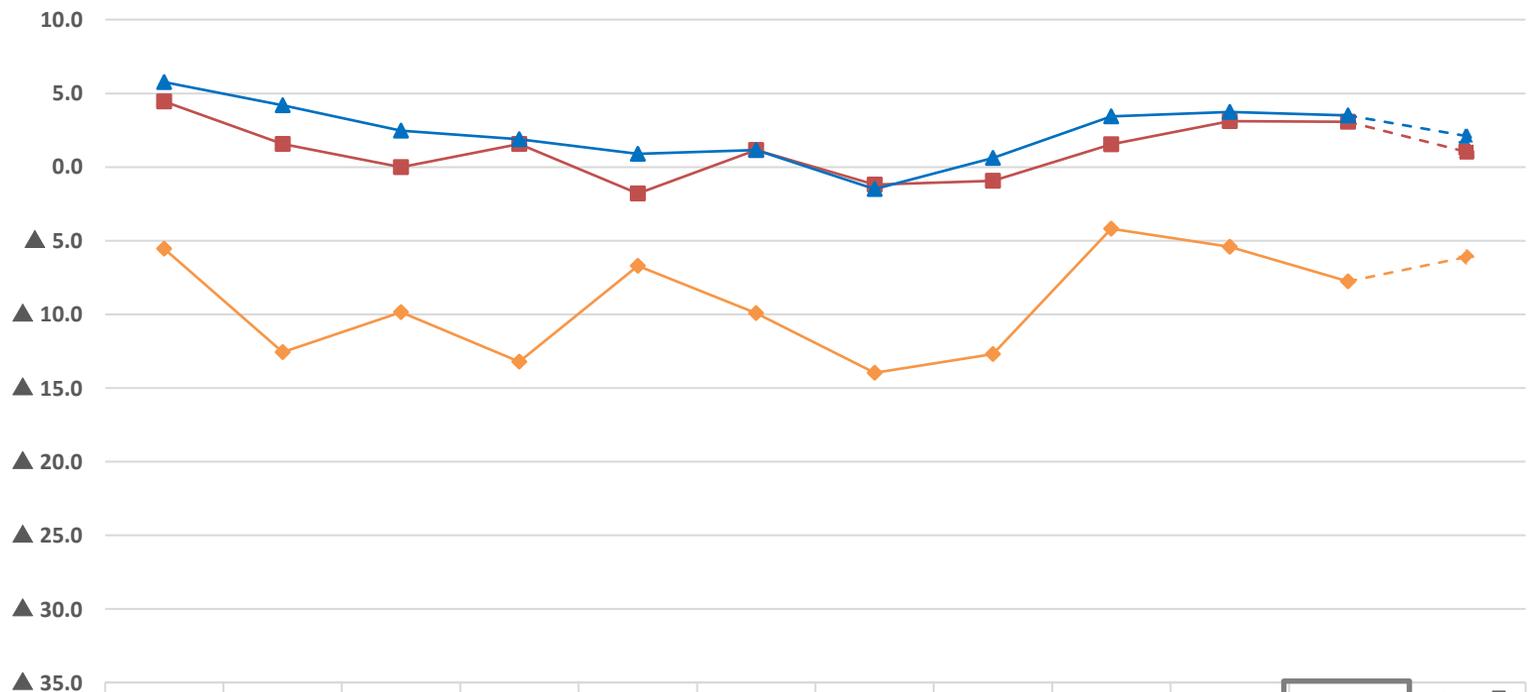
■ R6.1-3月期は、仕入単価DIは9.0ポイント減少し、上昇幅が縮小する見通し。販売単価DIは4.8ポイント減少し、上昇幅がやや縮小する見通し。売上額DIは3.0ポイント減少し、減少傾向に転じる見通し。採算(経常利益)DIは0.2ポイント減少し、悪化幅がやや拡大する見通し。業況DIは0.1ポイント減少し、悪化幅がやや拡大する見通し。また、従業員数DIは3.3ポイント減少し増加幅がやや縮小する見通し。在庫数DIは1.7ポイント減少し、増加幅がやや縮小する見通し。



	4-6月	7-9月	10-12月	R4.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R5.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R6.1-3月(見通し)
業況DI (好転-悪化)	▲ 20.6	▲ 25.0	▲ 28.0	▲ 31.6	▲ 26.0	▲ 27.9	▲ 28.0	▲ 22.2	▲ 18.1	▲ 18.0	▲ 11.7	▲ 11.8
売上額DI (増加-減少)	▲ 14.1	▲ 17.8	▲ 24.3	▲ 24.3	▲ 11.6	▲ 16.3	▲ 7.1	▲ 2.4	▲ 5.7	▲ 6.0	2.0	▲ 1.0
販売単価DI (上昇-低下)	▲ 9.4	▲ 3.3	9.6	11.4	21.0	23.0	26.0	24.2	29.3	27.9	28.3	23.5
仕入単価DI (上昇-低下)	36.4	45.2	61.0	64.8	76.6	79.3	78.0	78.6	72.6	79.8	76.0	67.0
採算(経常利益)DI (好転-悪化)	▲ 26.1	▲ 30.6	▲ 33.4	▲ 39.2	▲ 35.8	▲ 41.9	▲ 42.6	▲ 32.8	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 21.7	▲ 21.9
従業員数DI (増加-減少)	▲ 5.0	1.5	▲ 1.5	▲ 4.5	0.3	1.7	▲ 2.6	0.9	3.4	▲ 2.1	6.7	3.4
在庫数DI (増加-減少)	▲ 8.1	▲ 3.5	▲ 4.2	▲ 6.2	▲ 1.1	2.9	3.3	▲ 0.8	4.7	1.5	2.1	0.4

《資金繰り》 (前期比較)

- R5.10-12月期は2.4ポイント減少し、悪化傾向がやや強まった。
 ※長期資金借入難易度DIは前期同様容易な状況が続いた。
 ※短期資金借入難易度DIは0.2ポイント減少し、容易さがやや縮小した。
- R6.1-3月期は1.7ポイント増加し、悪化傾向がやや改善する見通し。
 ※長期資金借入難易度DIは2.1ポイント減少し、容易さがやや縮小する見通し。
 ※短期資金借入難易度DIは1.4ポイント減少し、容易さがやや縮小する見通し。

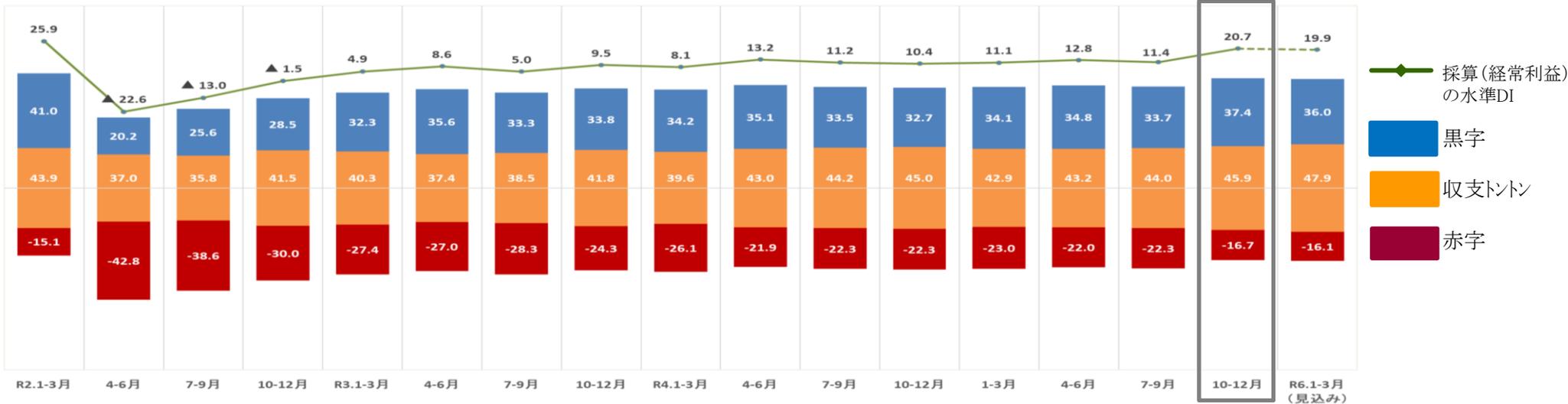


	4-6月	7-9月	10-12月	R4.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R5.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R6.1-3月 (見通し)
—◆— 資金繰りDI(好転-悪化)	▲ 5.6	▲ 12.6	▲ 9.9	▲ 13.2	▲ 6.7	▲ 9.9	▲ 14.0	▲ 12.7	▲ 4.2	▲ 5.4	▲ 7.8	▲ 6.1
—■— 長期資金借入難易度DI (容易-困難)	4.5	1.6	0.0	1.6	▲ 1.8	1.2	▲ 1.2	▲ 0.9	1.5	3.1	3.1	1.0
—▲— 短期資金借入難易度DI (容易-困難)	5.8	4.2	2.5	1.9	0.9	1.2	▲ 1.5	0.6	3.4	3.7	3.5	2.1

《業況水準》(当期判断)

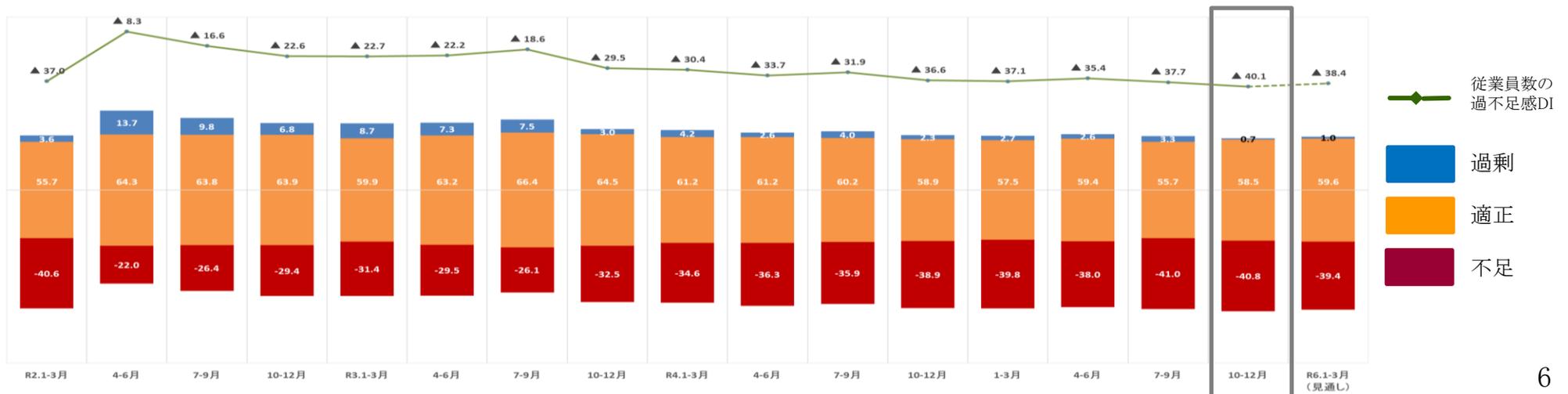
採算(経常利益)の水準DI【当期判断】

- R5.10-12月期は、9.3ポイント増加し、好調感が強まった。
- R6.1-3月期は、0.8ポイント減少し、好調感がやや縮小する見通し。



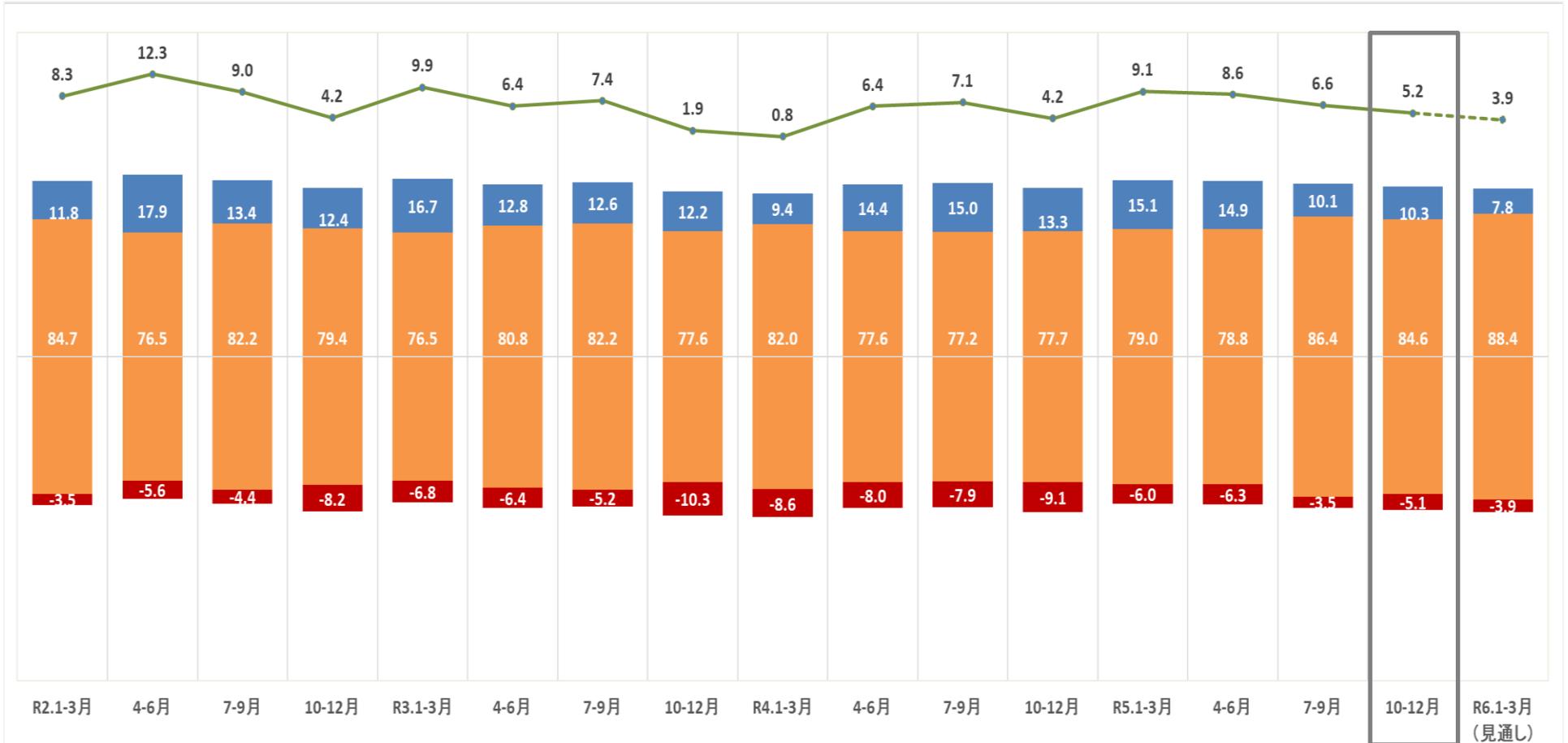
従業員数の水準(過不足感)DI【当期判断】

- R5.10-12月期は2.4ポイント減少し、不足感がやや強まった。
- R6.1-3月期は1.7ポイント増加し、不足感がやや弱まる見通し。



在庫数の水準(過不足感)DI【当期判断】

- R5.10-12月期は1.4ポイント減少し、過剰感がやや弱まった。
- R6.1-3月期は1.3ポイント減少し、過剰感がやや弱まる見通し。

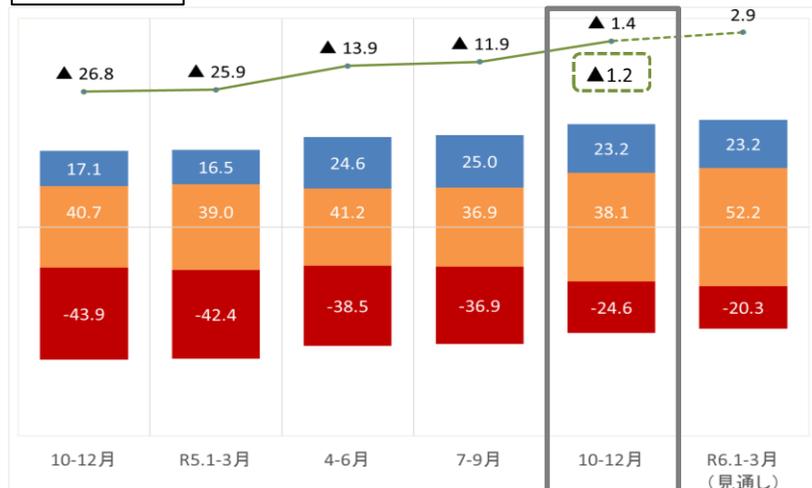


2 業況DI

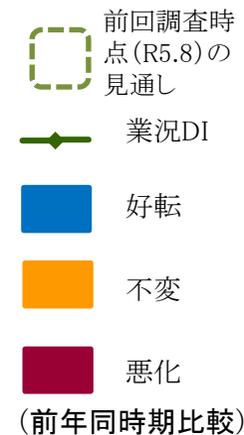
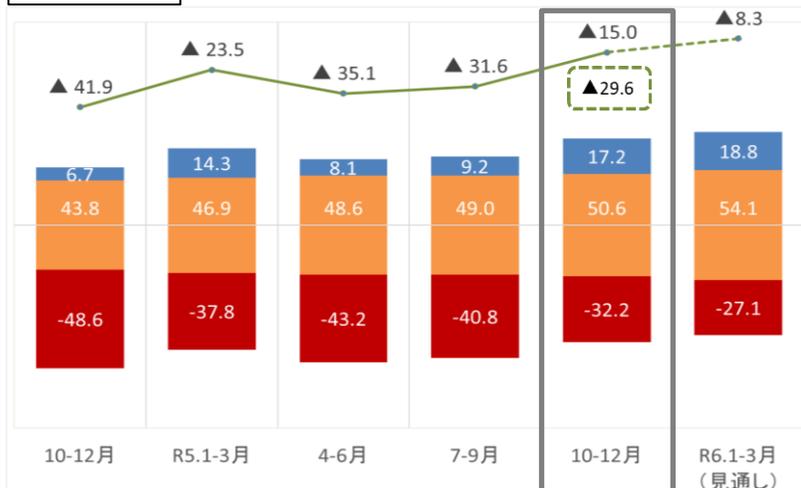
《業種別業況DI》（前年同時期比較）

- R5.10-12月期は、製造業、建設業で悪化傾向が改善した。一方、小売業、サービス業では悪化傾向が強まった。卸売業は、前期同様の厳しさが続いた。
- R6.1-3月期は、製造業が、プラスに転じる見込み。建設業、小売業で悪化傾向が改善する一方、卸売業、サービス業で悪化傾向が強まる見通し。

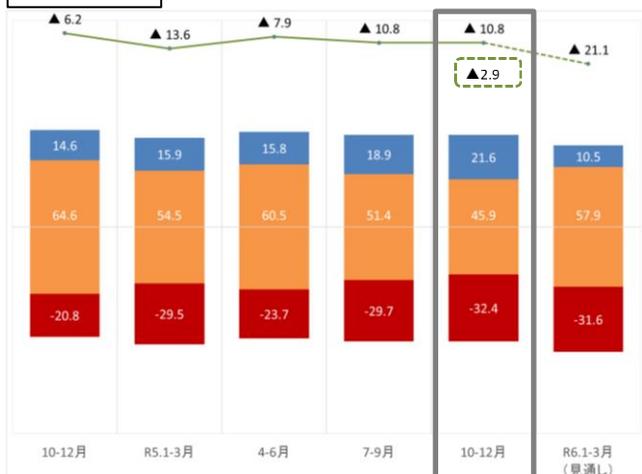
製造業



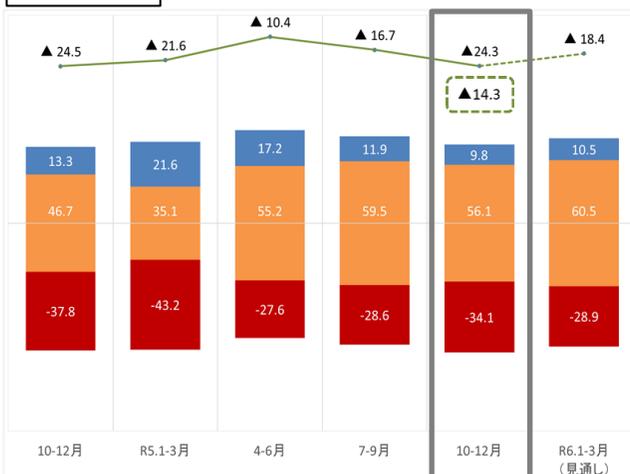
建設業



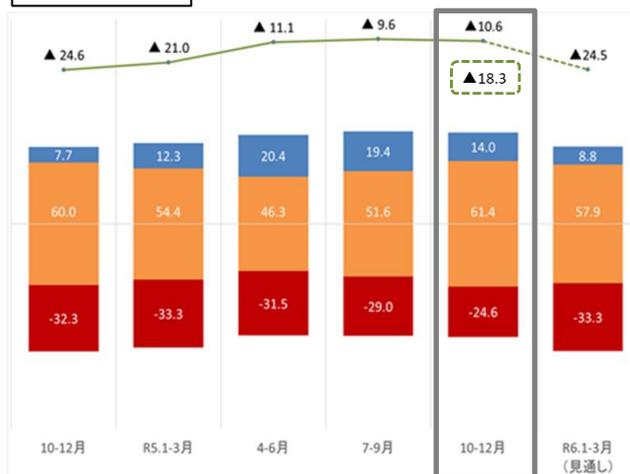
卸売業



小売業



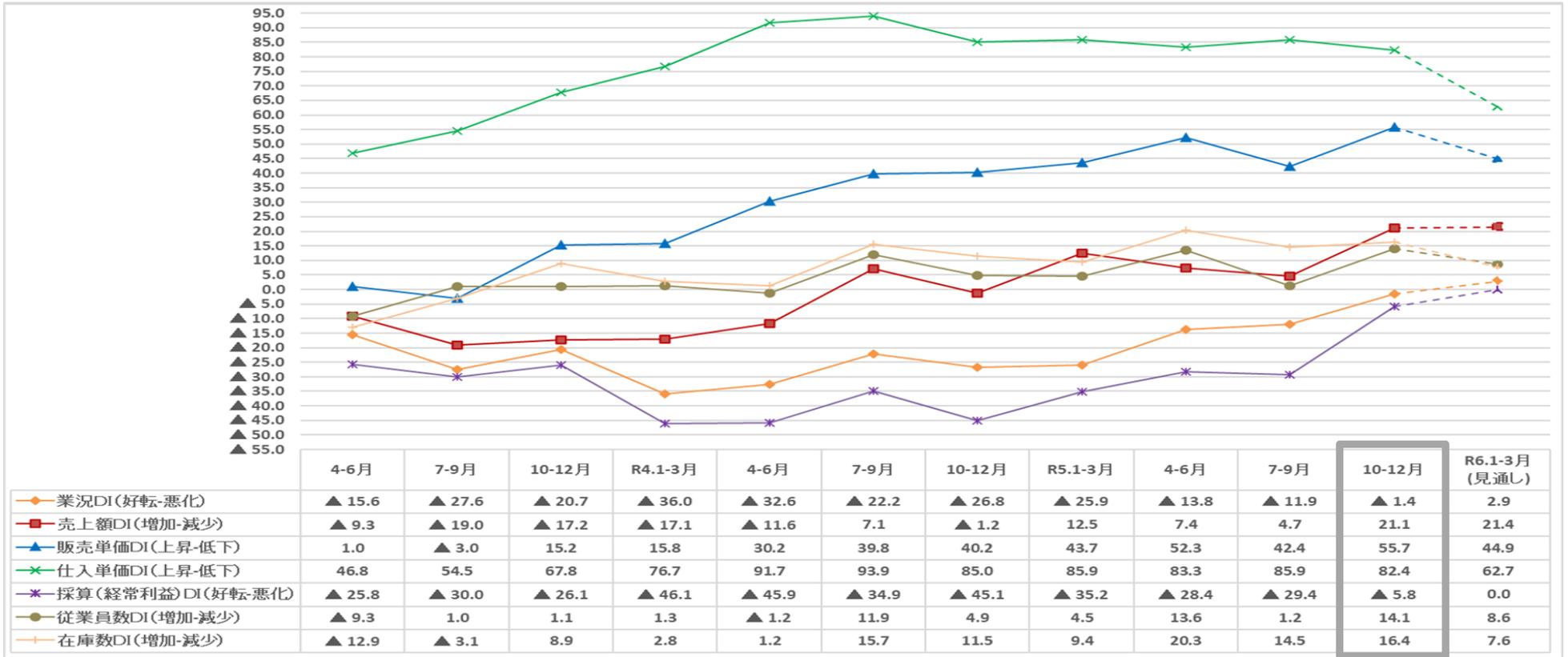
サービス業



3 業種別の景況

製造業

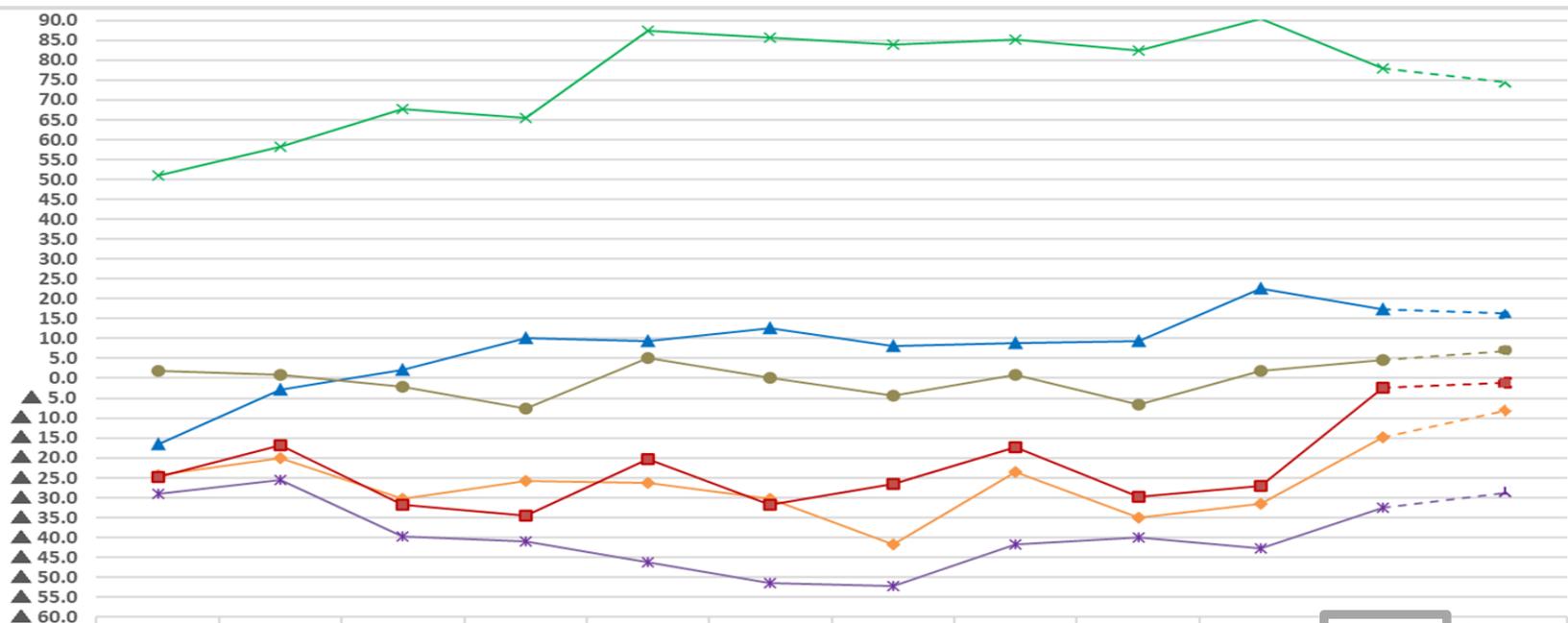
- R5.10-12月期は、仕入単価DIは3.5ポイント減少し、上昇幅がやや縮小した。販売単価DIは13.3ポイント増加し、上昇幅が拡大した。売上額DIは16.4ポイント増加し、上昇幅が強まった。採算(経常利益)DIは23.6ポイント増加し、悪化幅が大きく縮小した。業況DIは10.5ポイント増加し、悪化傾向が改善した。また、従業員数DIは12.9ポイント増加し、増加幅が強まった。在庫数DIは1.9ポイント増加し、増加幅がやや強まった。
- R6.1-3月期は、仕入単価DIは19.7ポイント減少し、上昇幅が縮小する見通し。販売単価DIは10.8ポイント減少し、上昇幅が縮小する見通し。売上額DIは0.3ポイント増加し、増加幅がやや拡大する見通し。採算(経常利益)DIは0.0とマイナス幅が縮小する見通し。業況DIは4.3ポイント増加し、プラスに転じる見通し。また、従業員数DIは5.5ポイント減少し、増加幅が縮小する見通し。在庫数DIは8.8ポイント減少し、増加幅が縮小する見通し。



(前年同時期比較)

建設業

- R5.10-12月期は、仕入単価DIは12.6ポイント減少し、上昇幅が縮小した。販売単価DIは5.4ポイント減少し、上昇幅が縮小した。売上額DIは24.8ポイント増加し減少幅が大幅に縮小した。採算(経常利益)DIは10.3ポイント増加し悪化幅が縮小した。業況DIは16.7ポイント増加し、悪化幅が縮小した。また、従業員数DIは2.6ポイント増加し、増加幅がやや強まった。
- R6.1-3月期は、仕入単価DIは3.5ポイント減少し、上昇幅がやや縮小する見通し。販売単価DIは0.9ポイント減少し、上昇幅がやや縮小する見通し。売上額DIは1.2ポイント増加し、減少幅がやや縮小する見通し。採算(経常利益)DIは3.9ポイント増加し、悪化幅がやや縮小する見通し。業況DIは6.7ポイント増加し、悪化傾向が縮小する見通し。また、従業員数DIは2.4ポイント増加し、増加幅がやや強まる見通し。



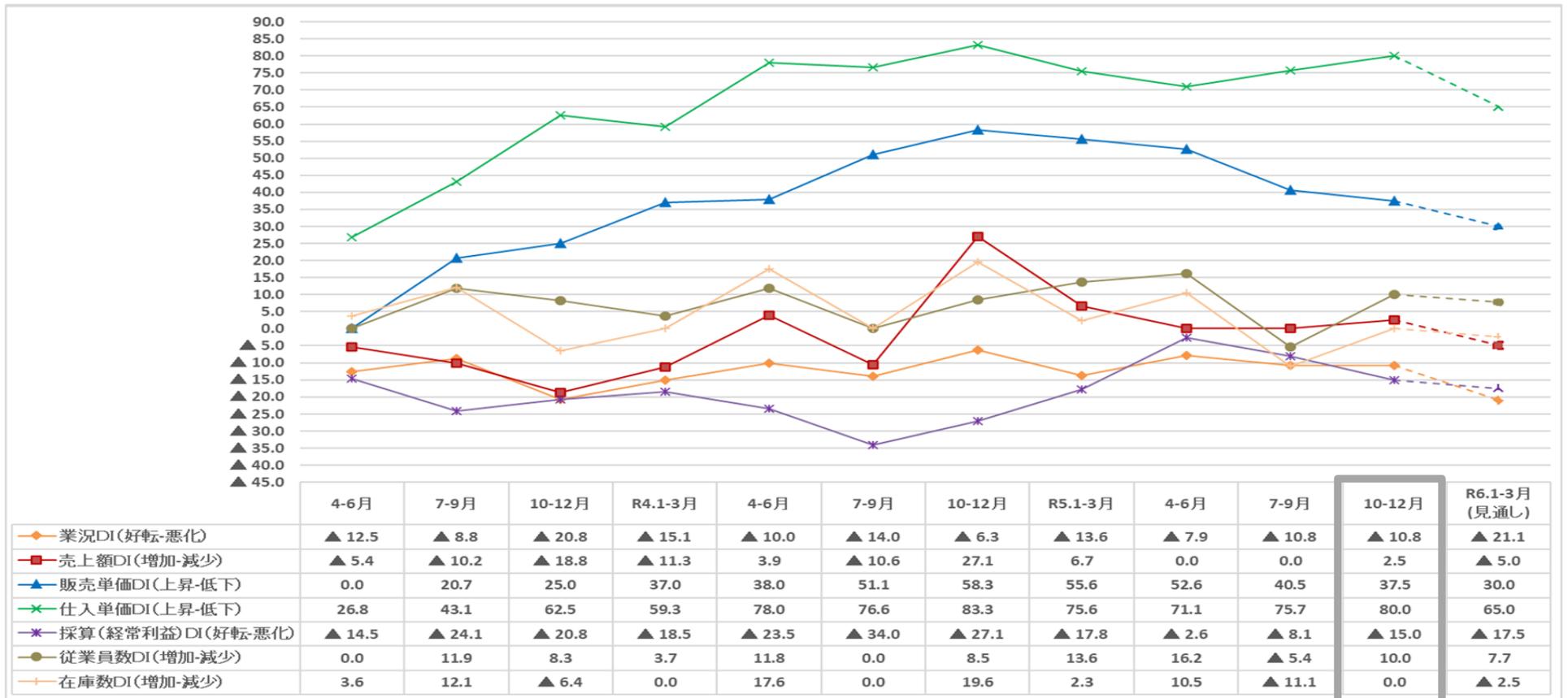
業況DI(好転-悪化)	▲ 24.2	▲ 20.0	▲ 30.2	▲ 25.9	▲ 26.4	▲ 30.4	▲ 41.9	▲ 23.5	▲ 35.1	▲ 31.6	▲ 14.9	▲ 8.2
売上額DI(増加-減少)	▲ 24.8	▲ 16.8	▲ 31.9	▲ 34.4	▲ 20.4	▲ 31.7	▲ 26.5	▲ 17.3	▲ 29.7	▲ 27.1	▲ 2.3	▲ 1.1
販売単価DI(上昇-低下)	▲ 16.5	▲ 2.8	2.1	10.0	9.3	12.5	8.0	8.7	9.3	22.6	17.2	16.3
仕入単価DI(上昇-低下)	51.0	58.3	67.7	65.6	87.5	85.6	83.9	85.3	82.4	90.5	77.9	74.4
採算(経常利益)DI(好転-悪化)	▲ 29.1	▲ 25.5	▲ 39.8	▲ 41.1	▲ 46.4	▲ 51.5	▲ 52.3	▲ 41.7	▲ 40.0	▲ 42.9	▲ 32.6	▲ 28.7
従業員数DI(増加-減少)	1.9	0.9	▲ 2.1	▲ 7.7	5.1	0.0	▲ 4.4	1.0	▲ 6.7	1.9	4.5	6.9

(前年同時期比較)

卸売業

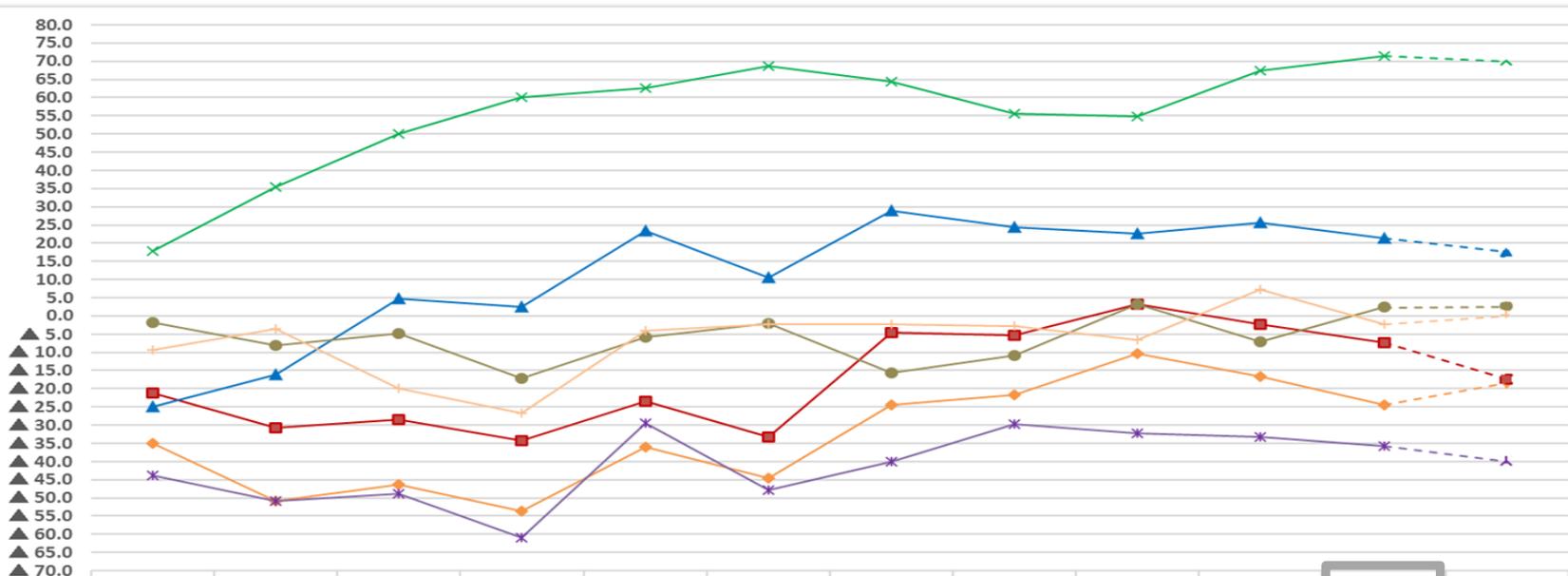
■ R5.10-12月期は、仕入単価DIは4.3ポイント増加し、上昇幅がやや拡大した。販売単価DIは3.0ポイント減少し、上昇幅がやや縮小した。売上額DIは2.5ポイント増加し、増加幅がやや強まった。採算(経常利益)DIは6.9ポイント減少し、悪化幅が拡大した。業況DIは前期同様の厳しさが続いた。また、従業員数DIは15.4ポイント増加し、増加傾向に転じた。在庫数DIは0.0とマイナス幅が縮小した。

■ R6.1-3月期は、仕入単価DIは15.0ポイント減少し、上昇幅が縮小する見通し。販売単価DIは7.5ポイント減少し、上昇幅が縮小する見通し。採算(経常利益)DIは2.5ポイント減少し、悪化幅がやや拡大する見通し。売上額DIは7.5ポイント減少し、減少傾向に転じる見通し。業況DIは10.3ポイント減少し、悪化幅が拡大する見通し。また、従業員数DIは2.3ポイント減少し、増加幅がやや縮小する見通し。在庫数DIは2.5ポイント減少し、減少傾向に転じる見通し。



小売業

- R5.10-12月期は、仕入単価DIは4.0ポイント増加し、上昇幅がやや拡大した。販売単価DIは4.2ポイント減少し、上昇幅がやや縮小した。売上額DIは5.0ポイント減少し、減少幅が拡大した。採算(経常利益)DIは2.4ポイント減少し、悪化幅がやや拡大した。業況DIは7.7ポイント減少し、悪化幅が拡大した。また、従業員数DIは9.4ポイント増加し、増加傾向に転じた。在庫数DIは9.5ポイント減少し、減少傾向に転じた。
- R6.1-3月期は、仕入単価DIは1.4ポイント減少し、上昇幅がやや縮小する見通し。販売単価DIは3.9ポイント減少し、上昇幅がやや縮小する見通し。売上額DIは10.2ポイント減少し、減少幅が拡大する見通し。採算(経常利益)DIは4.3ポイント減少し、悪化幅がやや拡大する見通し。業況DIは6.0ポイント増加し、悪化幅が縮小する見通し。また、従業員数DIは0.1ポイント増加し、増加幅がやや強まる見通し。在庫数DIは0.0とマイナス幅が縮小する見通し。

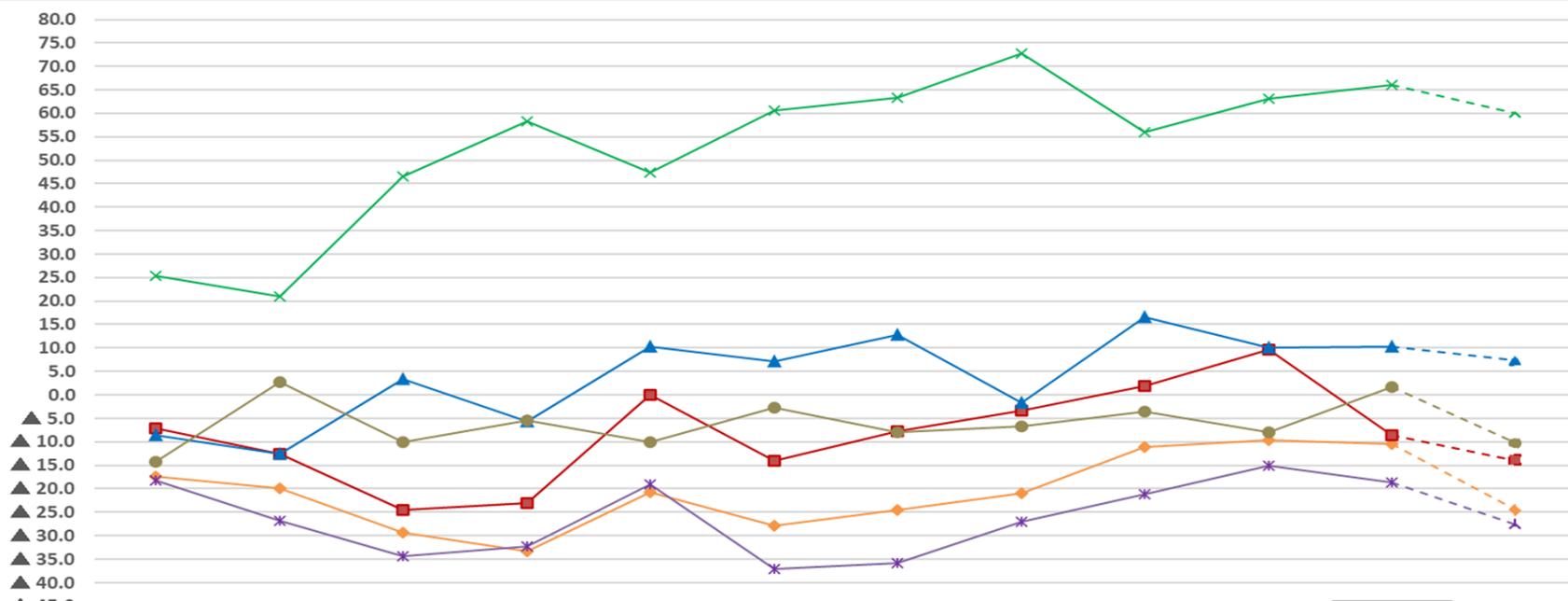


	4-6月	7-9月	10-12月	R4.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R5.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R6.1-3月(見通し)
業況DI(好転-悪化)	▲ 35.1	▲ 50.8	▲ 46.3	▲ 53.7	▲ 36.0	▲ 44.7	▲ 24.4	▲ 21.6	▲ 10.3	▲ 16.7	▲ 24.4	▲ 18.4
売上額DI(増加-減少)	▲ 21.1	▲ 30.6	▲ 28.6	▲ 34.1	▲ 23.5	▲ 33.3	▲ 4.4	▲ 5.4	3.2	▲ 2.3	▲ 7.3	▲ 17.5
販売単価DI(上昇-低下)	▲ 25.0	▲ 16.1	4.8	2.4	23.5	10.4	28.9	24.3	22.6	25.6	21.4	17.5
仕入単価DI(上昇-低下)	17.9	35.5	50.0	60.0	62.7	68.8	64.4	55.6	54.8	67.4	71.4	70.0
採算(経常利益)DI(好転-悪化)	▲ 43.9	▲ 50.8	▲ 48.8	▲ 61.0	▲ 29.4	▲ 47.9	▲ 40.0	▲ 29.7	▲ 32.3	▲ 33.3	▲ 35.7	▲ 40.0
従業員数DI(増加-減少)	▲ 1.8	▲ 8.1	▲ 4.8	▲ 17.1	▲ 5.9	▲ 2.1	▲ 15.6	▲ 10.8	3.2	▲ 7.0	2.4	2.5
在庫数DI(増加-減少)	▲ 9.4	▲ 3.4	▲ 20.0	▲ 26.8	▲ 4.0	▲ 2.2	▲ 2.3	▲ 2.8	▲ 6.7	7.1	▲ 2.4	0.0

サービス業

■ R5.10-12月期は、仕入単価DIは2.9ポイント増加し、上昇幅がやや拡大した。販売単価DIは0.1ポイント増加し、上昇幅がやや拡大した。売上額DIは18.3ポイント減少し、減少傾向に転じた。採算(経常利益)DIは3.6ポイント減少し、悪化幅がやや拡大した。業況DIは0.8ポイント減少し、悪化幅がやや拡大した。また、従業員数DIは9.8ポイント増加し、増加傾向に転じた。

■ R6.1-3月期は、仕入単価DIは6.1ポイント減少し、上昇幅が縮小する見通し。販売単価DIは3.0ポイント減少し、上昇幅がやや減少する見通し。売上額DIは5.4ポイント減少し、減少幅が拡大する見通し。採算(経常利益)DIは9.0ポイント減少し、悪化幅が拡大する見通し。業況DIは14.1ポイント減少し、悪化幅が拡大する見通し。また、従業員数DIは12.0ポイント減少し、減少傾向に転じる見通し。



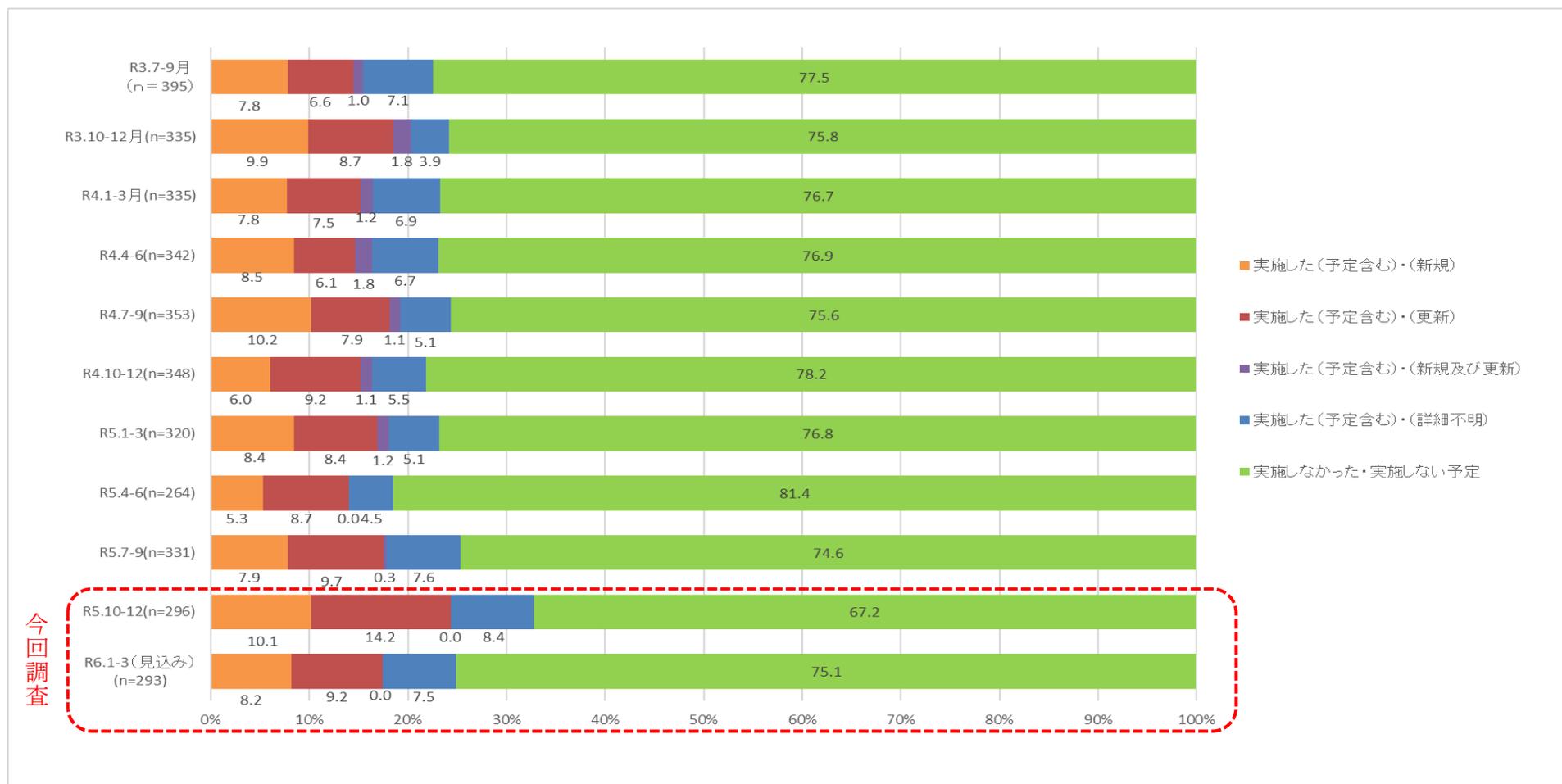
	4-6月	7-9月	10-12月	R4.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R5.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R6.1-3月 (見通し)
業況DI(好転-悪化)	▲ 17.5	▲ 20.0	▲ 29.3	▲ 33.3	▲ 20.7	▲ 27.9	▲ 24.6	▲ 21.1	▲ 11.1	▲ 9.7	▲ 10.5	▲ 24.6
売上額DI(増加-減少)	▲ 7.2	▲ 12.5	▲ 24.6	▲ 23.0	0.0	▲ 14.1	▲ 7.7	▲ 3.4	1.9	9.7	▲ 8.6	▲ 14.0
販売単価DI(上昇-低下)	▲ 8.5	▲ 12.7	3.4	▲ 5.6	10.2	7.2	12.7	▲ 1.7	16.7	10.2	10.3	7.3
仕入単価DI(上昇-低下)	25.3	20.9	46.6	58.2	47.4	60.6	63.3	72.9	56.0	63.2	66.1	60.0
採算(経常利益)DI(好転-悪化)	▲ 18.3	▲ 26.8	▲ 34.4	▲ 32.4	▲ 19.0	▲ 37.1	▲ 35.9	▲ 27.1	▲ 21.2	▲ 15.0	▲ 18.6	▲ 27.6
従業員数DI(増加-減少)	▲ 14.3	2.8	▲ 10.2	▲ 5.5	▲ 10.0	▲ 2.8	▲ 7.9	▲ 6.7	▲ 3.6	▲ 8.1	1.7	▲ 10.3

(前年同時期比較)

4 設備投資

設備投資実施割合(全体)

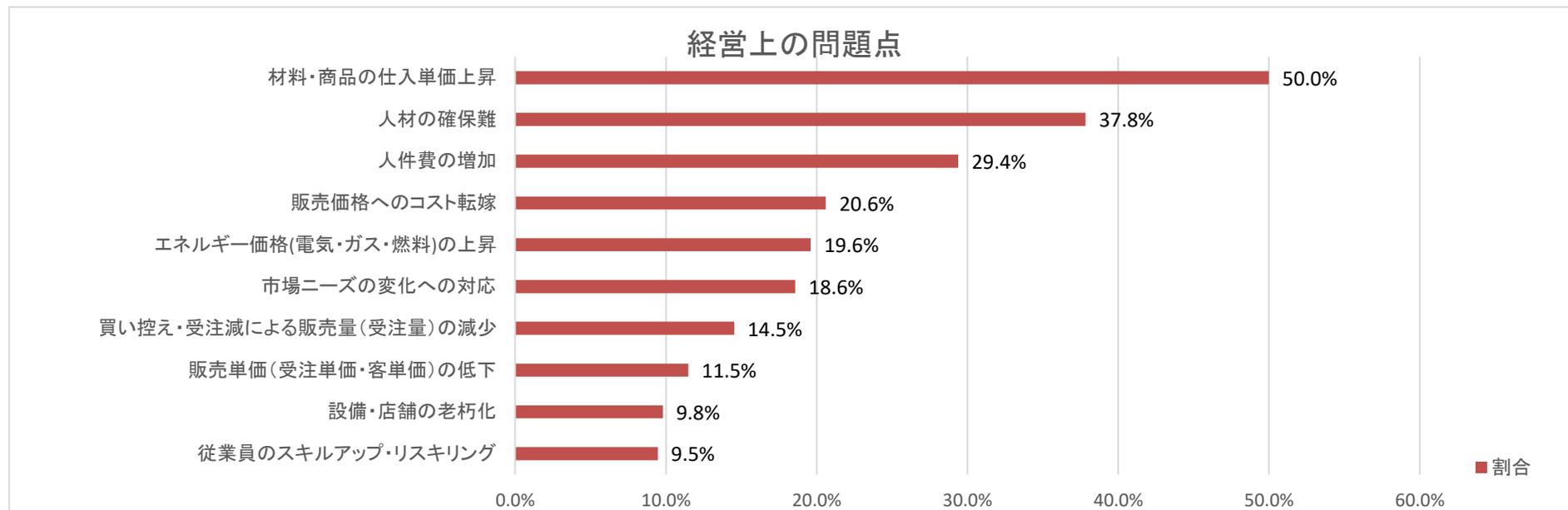
- R5.10-12月期は、設備投資を実施した(予定を含む)企業は32.7%(うち新規:10.1%、更新:14.2%、新規及び更新:0%、詳細不明:8.4%)で、前期より割合が増加し3割を超えた。また、設備投資を実施しなかった(実施しない予定含む)企業は67.2%であった。
- R6.1-3月期は、設備投資を実施予定の企業の割合は24.9%と、R5.7-9月期と同等水準で推移する見通し。



5 経営上の問題点

- 「材料・商品の仕入単価上昇」が、今回最も割合の高い課題となっている。また業種別でも、サービス業以外の業種において「材料・商品の仕入単価上昇」を課題の一位に挙げている。また、各業種とも「人材の確保難」が上位を占めている。

経営上の問題点（全体） (%)



業種別(R5.10-12月期) (%)

	第1位	(%)	第2位	(%)	第3位	(%)
製造業	材料・商品の仕入単価上昇	52.9	販売価格へのコスト転嫁	32.9	人材の確保難	25.7
建設業	材料・商品の仕入単価上昇	57.6	人材の確保難	47.1	人件費の増加	32.9
卸売業	材料・商品の仕入単価上昇	47.6	人材の確保難	31.0	市場ニーズの変化への対応	26.2
小売業	材料・商品の仕入単価上昇	47.6	人件費の増加	33.3	人材の確保難	31.0
サービス業	人材の確保難	47.5	人件費の増加	35.6	材料・商品の仕入単価上昇	32.2

調査概要

- ① 調査目的 奈良県内の企業・事業所の動向を定期的に調査、把握することで足下の景況等を把握し、産業政策の企画立案に活用する。
- ② 調査時期 令和5年11月
- ③ 調査対象期間 令和5年10月～12月(実績・見通し)、令和6年1月～3月(見通し)
- ④ 調査対象 奈良県内の企業および事業所 937社

※調査対象企業の見直しについて

令和元年7-9月期調査から、調査精度の向上を目的として調査対象企業の見直しを行いました。
 前回調査までとできる限り産業別比率を等しくしましたが、厳密には連続性を欠くことに御留意下さい。

- ⑤ 調査方法 郵送アンケート
- ⑥ 回収状況 有効回答301件(回収率32.1%)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
合計	71(6)	89(1)	40(2)	42(4)	59(5)	301(18)
産業別比率	23.6%	29.6%	13.3%	14.0%	19.6%	()の数字は大企業数

小売業 : 飲食業を含む
 サービス業 : 生活関連サービス業・娯楽業・物品賃貸業・宿泊業 等

⑦ 集計方法

- 業況DI・採算(経常利益)DI・..... 前年同時期と比較した「好転－悪化」
- 売上額DI・従業員数DI・在庫数DI・..... 前年同時期と比較した「増加－減少」
- 販売単価DI・仕入単価DI・..... 前年同時期と比較した「上昇－低下」
- 資金繰りDI・..... 3カ月前と比較した「好転－悪化」
- 長期資金借入難易度DI、短期資金借入難易度DI・ 3カ月前と比較した「容易－困難」
- 採算(経常利益)の水準DI・..... 比較ではなく各期の状況としての「黒字－赤字」
- 従業員数の水準DI・在庫数の水準DI・..... 比較ではなく各期の状況としての「過剰－不足」

※ DI=Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)

「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値。0を基準として、プラスの場合は増加(好転・上昇・過剰等)の回答が多く、マイナスの場合は、減少(悪化・低下・不足等)の回答が多いことを示す。

※ 図表の数値は小数点第1位までの記入(小数点第2位を四捨五入)した数値です。

そのため、合計が100.0%に戻らない場合があります。

奈良県産業・観光・雇用振興部産業政策課
 〒630-8501 奈良市登大路町30番地
 TEL:0742-27-7005
 FAX:0742-27-4473
 HP <https://www.pref.nara.jp/40351.htm>